

分担金・拠出金の名称	国際連合国際防災戦略事務局(ISDR)拠出金	平成28年度 予算額	251,655千円	総合 評価	A
拠出先の国際機関名	国際連合国際防災戦略事務局 (UNISDR)				
国際機関の概要	UNISDRは、防災に特化した唯一の国際機関であり、国際防災協力を推進している。具体的には、2015年3月に仙台市で開催された第3回国連防災世界会議で採択された国際的な防災指針である「仙台防災枠組2015-2030」のフォローアップの中心的役割を担っている。仙台防災枠組は各国がその実施を要請されており、UNISDRはその実施を支援するとともに、進捗のモニタリング及び報告を行っている。また、2015年12月には、我が国が主導し国連総会で「世界津波の日(11月5日)」が制定され、同機関が津波防災に関する普及啓発を世界各地で行っている。				
評価基準		達成状況			
1. 当該機関等の専門分野における影響力・貢献	UNISDRは、防災に特化した唯一の国際機関である。UNISDRは第二回、第三回国連防災世界会議の開催事務局を務め(第一回はUNISDRの前身が開催事務局)、防災の重要性を高めることに貢献してきた。その結果、防災に関する国際的な関心が高まっており、国連防災世界会議の規模や参加者が増加するとともに、持続可能な開発目標(SDGs)にも防災の視点が初めて取り入れられた(SDG1(貧困撲滅)、SDG2(飢餓撲滅)、SDG11(持続可能な都市)、SDG13(気候変動))。				
2. 我が国重要外交課題遂行における当該機関等の有用性(意思決定における我が国のプレゼンスを含む)	東日本大震災を始めとする幾多の自然災害を経験してきた我が国は、防災に関する多くの知見や技術を有しており、防災分野の国際協力において先進国の中でも主導的な役割を担っている。今後もかかる役割を強化する上で、防災に特化した唯一の国際機関である同機関を通じて我が国の被災の知見や教訓を世界と共有する意義は大きい。 具体的取組として、持続可能な開発に向けて、1994年の第1回目の横浜、2005年の第2回目の兵庫と続き、2015年で3回目となる国連防災世界会議をホスト(UNISDR主催)するなど、国際社会における我が国のプレゼンスが高まっている。 また、UNISDRと密に連携し、同会議にて採択された国際的な防災指針である「仙台防災枠組2015-2030」には、「事前の防災投資」や「より良い復興」、「女性のリーダーシップ」等の我が国の主張が盛り込まれ、さらには、同会議のフォローアップとして我が国が主導し、2015年の国連総会において「世界津波の日」を制定し、世界各国における防災の主流化に向けた議論をリードするなど、国際社会における発言力・影響力を確保してきている。				
3. 当該機関等の組織・財政マネジメント	UNISDRは、国連会計監査委員会による外部監査の結果、UNISDRの財政マネジメントは健全である旨評価されている。さらに、UNISDRは毎年の活動報告を公表し、透明性の向上に努めるとともに、2か月に1回の頻度で、ドナー国等との会合を設けるなど積極的にドナー国の意向を組織・財政のマネジメントに反映するとともに機構改革にも取り組むべく、6か年(2016-2021)の中長期計画を策定・公表し、組織・財政マネジメント強化に努めている。例えば、成果重視型管理(RBMS)システムを採用し、予算執行を含む内部モニタリングシステム強化に努めるとともに、RBMS実施レビュー報告書(2014年)、これまでの組織効率化評価への対応に関する報告書(2016年)をウェブサイトで公表するなど透明性の確保にも努め、継続的に取り組んでいる。				
4. 当該機関等における邦人職員の状況	UNISDRで働く職員に占める邦人職員の割合は、3.6%(邦人職員4名/全体数112名;2015年末時点)であるが、2016年には、邦人職員としては初めて幹部(D1ポスト)に昇任するなど、今後も邦人職員の増強を図っていく。 また、2008年に神戸市に開設されたUNISDR駐日事務所(開設当初より、所長は日本人)との緊密な連携により、我が国の専門家や官民組織によるUNISDRのプロセスへの参加や国際社会への発信が推進されている。なお2011年以降、UNISDRのトップである国連事務総長特別代表(防災担当)は年数回来日し、被災地訪問等を実施しており、2016年より新しく着任した特別代表も、着任早々来日し、ハイレベルとの対話はもとより、東日本大震災の被災地の子供たちとの交流を通じ復興にも貢献しているが、これらは駐日事務所の企画・調整によるものである。				
5. 我が国拠出の執行管理、PDCAサイクルの確保	UNISDRにおいては、以下の通りPDCAを確保。 ①Plan:UNISDRにおいて二か年予算案を策定。②Do:我が国の分担金支払。UNISDRによる予算案執行。在ジュネーブ日本政府代表部によるUNISDRの運営・活動のモニタリング。③Check:内部・外部監査報告書による運営活動の成果を評価。④Act:年2回開催されるドナー会合における協議等を通じて運営における要改善事項を申し入れ。				
担当課・室名	国際協力局 地球規模課題総括課				